

編修趣意書

教育基本法との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
29 - 29	高等学校	芸術科	書道Ⅲ	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
38 光村	書Ⅲ 305	書Ⅲ		

I. 編修の基本方針

編修の趣旨

生徒が書に愛着をもち、「自分の書」を深めることができる教科書を目ざし、次の点を柱に編修しました。

自分の書を深める。

感じる

鑑賞・臨書教材では、原跡に迫る高精細な図版を掲載しています。
「本物」から感じ取ることができる書の真髄は、生徒の感性を豊かにし、表現と鑑賞の能力を伸ばします。

学ぶ

古典がもつ個性豊かな表情を味わいながら、創造的な表現を探究できる構成を目ざしました。学びやすさを追求し、達成感をもって取り組める構成は、生徒の主体的な学習姿勢を育成します。

考える

個性豊かで幅広く網羅された古典の鑑賞や臨書を通して、個性的な書の表現や構成美について考え、多角的に理解を深めます。

編修の留意点

1 書に親しみ、生涯にわたって愛好する心情を育成する。

- 個性豊かな書の能力を育む教科書を目ざし、興味・関心などに応じて生徒が課題を選択し、主体的に学ぶことで自分の書に向き合えるように構成しました。

2 感性を磨き、個性豊かな書の能力を高める。

- 「書道Ⅰ・Ⅱ」で培った能力を基礎とし、厳選された古典教材を学習することによって創造の根源となる感性を磨き、表現力と鑑賞力を相乗的に培いながら自己表現へと展開できる内容を目ざしました。

3 書の伝統と文化を尊重する態度を育てる。

- 古典に関連づけて書論を掲載するなど、書の伝統と文化について、さまざまな角度からアプローチすることで、その理解を深めて文化に親しみ、次世代へ継承していく態度を育成することを目ざしました。

1. わかりやすく、学びやすい教科書

■「何を、どう学ぶか」をわかりやすく示しました

- ・主たる三つの分野である、「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」について、それぞれ「何を」「なぜ」「どのように」学び、どのような力を身に付けるのかという学習の目的と意義を明確に示しました。

■中綴じ製本で扱いやすくなりました

- ・開きがよい製本を採用することによって、古典教材が見開き紙面でダイナミックなレイアウトに展開することが可能となり、これまで以上に生徒の鑑賞に配慮することができました。また、二つ折りにもできるため、臨書の際に負担が軽減されます。
- ・臨書古典教材は原寸掲載を基本とし、その魅力や特徴を損なわないよう、すっきりとしたレイアウトを心がけました。

2. 個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばせる教科書

■漢字と仮名の古典教材が充実しました

- ・生徒が主体的な学習の中で視野を広げ、感性を磨き、個性豊かな表現を創造できるよう、自らの興味・関心や能力、適性などに応じて領域や活動を選択できる構成としました。書作品の選定にあたっては、「書道Ⅰ」「書道Ⅱ」で学習した内容をさらに発展させ、さまざまな時代・書風の作品を幅広く取り上げることで、生徒の興味・関心に応じて創造的な学習活動が展開できるよう配慮しました。
- ・古典教材の充実を図るとともに、近代書家の作品を豊富に紹介した「漢字の書作品を味わう」「仮名の書作品を味わう」を創作の前に位置づけ、創造的な表現に生かせるよう配慮しました。

■古典図版や写真がより美しくなりました

- ・古典教材は原寸掲載だけでなく、必要に応じて部分拡大や原器の図版を掲載するなど、さまざまな角度から鑑賞ができるように構成されています。
- ・また古典は、生徒の感性を高める大切な教材であるため、極めて鮮明で臨場感あふれる高精細の図版を掲載し、教材の価値を高めるよう追求しました。

3. 書の伝統と文化への理解を深める教科書

■随所に書論を掲載しました

- ・日中の書の歴史とその背景となる諸文化との関連について、いっそう理解を深められるよう配慮しました。各分野の鑑賞教材やコラムでは、書の伝統への理解を深化させる一つの観点として、書体や作品に関する書論を掲載し、生徒の知的関心を高められる構成としました。また、資料の「中国・日本書道史略年表」では、各時代を代表する書論を適宜抜粋して紹介し、書文化の振興とともに、書に対する捉え方や思想がどのように変化し多様化してきたかを概観し、考察を深められるよう配慮しました。

4. 文字文化を尊重し言語を豊かにする教科書

- ・先人が残した書の文化的価値や伝統を知り、それを次代へつなぐ大切さを認識するとともに、文字への関心を高め、生涯にわたって書に親しんでいけるよう配慮しました。また、文字全般に関して視野を広げ、文字表現を通して言語を豊かにできるよう工夫しました。

Ⅱ. 対照表

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所
鑑賞の切り口 書論		○ 鑑賞の切り口となる書論は、先人が残した書の審美眼であるとともに、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うための格言でもあることを意識した題材を掲載した。【第一号】	p.2
① 漢字の書を探求しよう	漢字の書の多様性を楽しむ	○ 時代を超えて受け継がれてきた書の古典を知り、その書き手の感性や古典が持つ多様性を鑑賞することで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うよう配慮した。【第二号】 ○ 空海筆の崔子玉座右銘断簡を鑑賞することにより、唐代の優れた文化が我が国に及ぼした影響に思いをはせ、古来盛んであった相互の関係についても知識を深めながら、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養うよう配慮した。【第五号】	p.4-5
	【篆書】 古典の書風を生かして書こう 多彩な表情を楽しもう	○ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うために、篆書の古典教材を幅広く紹介した。【第一号】 ○ 伝統と文化を尊重する態度を養うために、金文・石碑・紙本といった、多種多様な素材の古典を掲載した。【第五号】	p.6-9
	【隸書】 古典の書風を生かして書こう 多彩な表情を楽しもう	○ 篆書から生まれた公式書体としての隸書を篆書に続けて掲載することで、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うよう配慮した。【第三号】 ○ 古代文字を紹介することで、古代社会における文字の役割と個人の価値を尊重し、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うよう配慮した。【第二号】	p.10-15
	【行書・草書】 古典の書風を生かして書こう 多彩な表情を楽しもう 個性豊かな作品を楽しもう	○ 我が国に伝来した王羲之の書や、それを基に花開いた平安朝の書、また唐代や明清代を代表する多種多様な古典を掲載することで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うよう配慮した。【第五号】 ○ 明清代の個性豊かな行草書作品をまとめて紹介することで、個人の価値を尊重し、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うよう配慮した。【第二号】	p.16-21 p.20-21
	【楷書】 多彩な表情を楽しもう	○ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うために、楷書の古典教材を幅広く紹介した。【第一号】 ○ 伝統と文化を尊重する態度を養うために、時代を超えて受け継がれてきた、多種多様な素材・題材の古典を掲載した。【第五号】	p.22-23
	漢字の書作品を味わう	○ 生徒個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、自らの価値観を尊重して創造性を養うことができるよう、自らの感興や意図に応じた表現が工夫された現代の多様な作例を提示した。【第二号】	p.24-25
	漢詩を書こう	○ 創作活動では、唐代の漢詩を題材にすることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うよう配慮した。【第一号】 ○ 漢詩に詠まれた自然の美や生命の営み、それらを大切にしてきた人の心を追体験することで、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるよう配慮した。【第四号】	p.26-27
	【コラム】 書論の背景 黄庭堅	○ 書論を展開することにより、書に限定されない幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うよう配慮した。【第一号】	p.28
② 仮名の書を探求しよう	仮名の書の多様性を楽しむ	○ 千年という長い歴史を超えて大切に受け継がれてきた古筆を、拡大図版で鑑賞することにより、書き手の感性を感じとりながら、生徒が個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うよう配慮した。【第二号】	p.30-31

図書構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所
② 仮名の書を探しよう	平安時代中・後期 字体の違いを捉えて書こう 字体と表現の広がりを楽しもう	○ 草仮名から女手への変遷を想像できる古筆を掲載することで、漢字から仮名が成立した過程における先人の創意工夫を知り、伝統と文化を尊重しながらも、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うよう配慮した。【第二号】	p.32-35
	平安時代末期 書風の個性を捉えて書こう	○ 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うために、書風や書写形式、表装形式の異なるさまざまな古筆を教材とした。【第二号】	p.36-37
	〔コラム〕 藤原家三代 能書の系譜	○ 藤原行成を祖とする世尊寺流の系譜を教材にすることで、受け継がれていく伝統の中で、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うよう配慮した。【第三号】	p.38-39
	鎌倉時代以降 際立つ個性を楽しもう	○ 長い歴史を超えて大切に受け継がれてきた文化の伝承のなかで、書き手の感性や古筆が持つ多様性を鑑賞できる作品を掲載することで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養えるよう配慮した。【第二号】	p.40-41
	仮名の書作品を味わう	○ 生徒の個性を尊重し、自らの価値観を尊重して創造性を養うことができるよう、現代を代表する作家自らの感興や意図に応じた表現を構想し、工夫してきた教材として、多様な作例を提示した。【第二号】	p.42-43
	書と絵を調和させて書こう	○ 書と絵の調和した構成を取り上げることで、自然や四季の移ろいの美しさを鋭敏に捉え、それらを大切にしてきた日本文化の有り様を再発見させるとともに、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うよう配慮した。【第四号】	p.44-45
	〔コラム〕 書論の背景 空海	○ 書が長い歴史の中で果たしてきた社会的な役割を書論を通して知ることによって、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うよう配慮した。【第一号】	p.46
③ 漢字仮名交じりの書を探しよう	漢字仮名交じりの書を楽しむ	○ 會津八一の学規を鑑賞することによって、書は心に響く言葉や思いを表現できることを自覚し、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うよう配慮した。【第三号】	p.48-49
	言葉と表現の響き合いを 捉えよう	○ 生徒の個性を尊重し、自らの価値観を基にして創造性を養うことができるよう、現代を代表する作家自らの感興や意図に応じた表現を構想し、工夫した例として、多様な作品を提示した。【第二号】	p.50-51
	〔コラム〕 生活の中の書	○ 生活の中の書の作例によって、習得した創造性を生活に生かす具体的なイメージを与えるとともに、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うよう配慮した。【第二号】	p.52-53
	未来への決意を書こう	○ これまで学習してきたことを生かし、未来への決意を表現させることで、生徒に幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うよう配慮した。【第一号】	p.54-55
	〔コラム〕 自分の表現を求めて	○ 言葉には自然の美や生命の営み、それらを大切にきた人の心を表すという重い意味がある。無数にあるこの言葉の中から自己の本質を捉え、これを表現するために、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うよう配慮した。【第一号】	p.56
④ 篆刻・刻字を探しよう	篆刻を楽しむ	○ さまざまな印と印材を紹介することで、日中両国の伝統と文化が受け継がれていることを示し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う意識がもてるよう配慮した。【第五号】	p.58-59
	刻字を楽しむ	○ 刻字を臨場感ある図版で掲載することで、立体的な刻字が成立した過程に先人の創意工夫を知り、伝統と文化を尊重しながらも、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うよう配慮した。【第二号】	p.60
⑤ 資料	中国・日本書道史略年表	○ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために、日本と中国の歴史的な文化交流を示しながら、両国で書かれた書を紹介した。【第五号】 ○ 日中の書道史年表に加えて、先人が残した書の審美眼である書論を時系列に掲載することで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うことができるよう配慮した。【第一号】	p.62-表3

Ⅲ. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1 全ての生徒にとって使いやすく、わかりやすい教科書を実現しました。

[特別支援教育への配慮]

特別支援教育の専門家から校閲を受け、全ての生徒にとってわかりやすく、使いやすい教科書を実現しました。

- 学習の見通しをもてるように……学びに集中できるよう、学習内容を焦点化し、授業の流れがひと目でわかる、すっきりとしたデザインを採用しました。

[色覚特性への対応]

カラーユニバーサルデザインの専門家から校閲を受け、全ての生徒にとってわかりやすく、使いやすい教科書を実現しました。

- 配色への配慮……文字や図表などに複数の色を用いるときは、誰もが明確に識別できる組み合わせであることに、細心の注意を払いました。

[わかりやすい表記・表現への配慮]

解説文はできるだけ簡潔に表記し、難解な用語などには見開きページ単位の初出にふりがなを付記しました。また、重要な語句が目に入りやすいよう文字の大きさにも配慮しました。

[印刷・製本への配慮]

印刷適正の優れた用紙を使用し、図版の再現性を高めました。また、長期間の使用にも耐えられる堅牢なものであるよう、製本にも十分に配慮しました。

2 他教科の学習との関連を図りました。

古文・漢文や歴史の学習、他の芸術分野との関連性にもふれ、総合的に知識と感性を高められるようにしました。

- 古典の理解が深まるように……臨書教材においては、字形を見るだけでなく、古典の内容が理解できるよう、直訳ではなく、大意で解説しました。
- 総合的な知識としての書を……「中国・日本書道史略年表」における日中交流史や本阿弥光悦・俵屋宗達による下絵と書の調和、そして正岡子規ら近代俳人の書簡に見る書など、歴史・美術・工芸・文学といった他教科との関連性を図り、総合的な知識として書道の理解が深まるよう配慮しました。

3 環境に配慮した教科書です。

教科書で使われている紙は、環境にやさしい紙を使用し、印刷にはエコマーク認定の植物油インキを使用しています。教科書を制作するうえで、環境への配慮を重視しています。

編修趣意書

学習指導要領との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
29 - 29	高等学校	芸術科	書道Ⅲ	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
38 光村	書Ⅲ 305	書Ⅲ		

I. 編修上特に意を用いた点や特色

「書Ⅲ」の目標 自分の書を深める。

編集の基本方針 感じる・学ぶ・考える

構造上の特徴

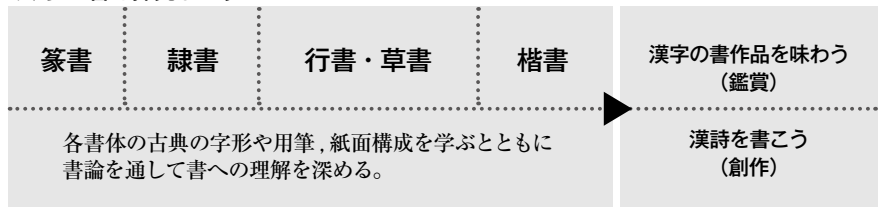
1 全体の構成と配列

創造的な活動を通して主体的に学ぶことで、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重する態度を育て、個性豊かな書の能力を高めることができるよう、次のような工夫をしました。

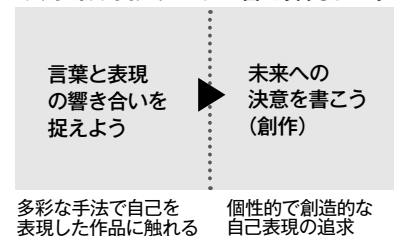
- 「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」の他、書論や「書の伝統とその背景となる諸文化」等、学習指導要領に示された指導事項が効果的に展開できる配列です。
- 「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」を単元として独立させ、各領域を「表現」と「鑑賞」に分けて構成しました。内容Aの(1),(2),(3)またはBのうち、いずれか一つを選択しても、合わせて扱っても、効果的に学習できるように配慮しました。
- 「書の伝統とその背景となる諸文化」については、各領域での学習に加え、コラム「書論の背景」や「中国・日本書道史略年表」を設置しました。書の伝統と文化に対する理解をいっそう深め、それらを尊重する態度を養えるよう配慮しました。
- ページを折り返せる中綴じ製本を採用。高精細な古典画像を机上に置いて臨書できます。



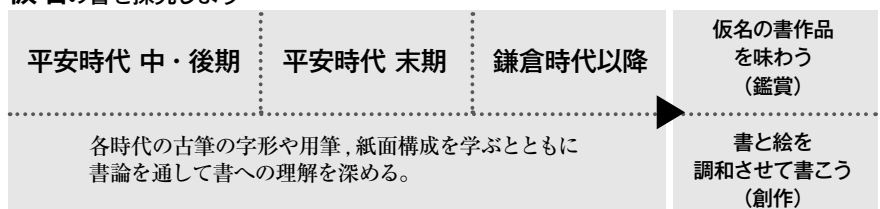
漢字の書を探究しよう



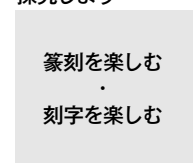
漢字仮名交じりの書を探究しよう



仮名の書を探究しよう



篆刻・刻字を 探究しよう



書道史

書道史略年表

2 各領域の構成

【漢字の書を探究しよう】

書体ごとに鑑賞と臨書の観点から、「書道Ⅲ」の目標にふさわしい多彩な古典を掲載した。鑑賞においては各書体について言及した書論を配した。また身につけた知識・技能や感性を生かすことができるよう、現代書家の作品の鑑賞と創作を単元の最後に配置した。



→書体の成立順に代表的な古典を提示し、各書体の特徴と書風の多様性を理解できるよう構成した。

→各書体について言及した書論を随所に配し、書への理解をより一層深められるよう配慮した。



→「書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で習得した知識や技能を総合的に活用する教材として、近代の書家によって書かれた作品の鑑賞と創作を最後に配した。



【仮名の書を探究しよう】

時代ごとに鑑賞と臨書の観点から、「書道Ⅲ」の目標にふさわしい多彩な古筆を掲載した。鑑賞においては各時代の書について言及した書論を配した。また身につけた知識・技能や感性を生かすことができるよう、現代書家の作品の鑑賞と創作を単元の最後に配置した。



→年代順に題材を設定して代表的な古筆を提示し、時代とともに変化する仮名の書的美を体感できるように構成した。

→仮名の書について言及した書論を随所に配し、書への理解をより一層深められるよう配慮した。



→「書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で習得した知識や技能を総合的に活用する教材として、現代の書家によって書かれた作品の鑑賞と創作を最後に配した。

【漢字仮名交じりの書を探究しよう】

生徒たちが現代社会に即した効果的な表現を工夫できるよう、多彩な手法で自己を表現した作品を紹介した。「生活の書」や現代作家の提示する書など、多彩な作品を掲載している。また「未来への決意を書こう」では、自分の言葉を自分らしく表現することを目指した。



※「A表現」の「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」および「B鑑賞」のうち、いずれか一つを選択しても、合わせて扱っても、効果的に学習できるように配慮した。

教材化の配慮と工夫

[教材の選定と配列]

- ・ 古典・古筆の選定においては、生徒の感性や関心を高め、主体的な学習につながることを重視しました。
- ・ 古典・古筆は、諸本の中から最良のものを選び、その書に特有の書風や字形・用筆が見られる部分を精選しました。

領域	書体	主要教材	副次的な扱いの教材（漢字）
漢字の書	篆書	「散氏盤」「天発神讖碑」「中山王罍方壺」 「篆書崔子玉座右銘四屏」	
	隸書	「礼器碑」「銀雀山前漢簡」「敦煌漢簡」 「張遷碑」「開通褒斜道刻石」 「隸書崔子玉座右銘」「隸書七言聯」「題昔邪之廬壁上」	「蘭亭序」(神龍半印本) 「臨天發神讖碑」 「伏波神祠詩卷」 「狸毛筆奉獻表」
	行書	「崔子玉座右銘断簡」「喪乱帖」	
	草書	「自叙帖」「伊都内親王願文」「玉泉帖」 長条幅（張璪図／黄道周／王鐸／倪元璐／傅山）	
	楷書	「魏靈藏造像記」「楷書前後出師表卷」「高貞碑」	
仮名の書		「本阿弥切本古今和歌集」「秋萩帖」「升色紙」「桂宮本万葉集」「十五番歌合」 「卷子本古今和歌集」「曼殊院本古今和歌集」「一条摂政集」「藍紙本万葉集」 「本願寺本三十六人家集（貫之集上）」「石山切貫之集下」「更級日記」「源氏物語抄」 「和歌一首」「月に松山下絵新古今集和歌短冊」「四季草花下絵新古今集和歌色紙」 「木版下絵和歌巻」	
漢字仮名交じりの書		會津八一の書	

[生徒の理解を深める工夫]

- ・ 発達段階に即して、わかりやすく解説しました。表記は統一し、常用外漢字や専門用語には読み方を付しました。
- ・ 基本の教材は次のような要素で構成しました。また創作では、制作の手順と作品例を示しました。

原器図版

拓本だけでなく、青銅器の全景の図版などを掲載することで、生徒がより古典に親むことができるよう配慮しました。

臨書参考

後世の書家が臨書した文字を提示し、形臨から意臨・背臨、さらに創作へという展開を意識できるようにしました。



原寸古典

書体や書風がわかりやすく表れた部分を、原寸で掲載しました。

キャッチコピー・概要・釈文・大意

古典の特色を直感的につかめるキャッチコピーを設け、書風の違いを実感できるように配慮しました。

[紙面構成上の工夫]

- ・ 鮮明な画像と臨場感あふれるレイアウトで、書の美を存分に伝えます。
- ・ 各単元に中扉やインデックスを付して検索性を高め、生徒が教科書を主体的に活用できるよう配慮しました。

[生徒の興味・関心を高める工夫]

- ・ 巻末の書道史略年表では書論を多数紹介し、「書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で培った書道史の知識と書論を関連づけて扱うことができるよう構成しました。また、書の歴史や文化、書論への理解を深め、生涯にわたり書を愛好していくための基礎となる以下のコラムを設けました。

漢字の書	「書論の背景 黄庭堅」
仮名の書	「藤原家三代 能書の系譜」「書論の背景 空海」
漢字仮名交じりの書	「生活の中の書」「自分の表現を求めて」

Ⅱ. 対照表

	図書の構成・内容	該当箇所	学習指導要領の内容		
			A 表現	B 鑑賞	内容の取扱い
	鑑賞の切り口 書論	p.2		ア・イ・ウ	(1)(3)
① 漢字の書を探しよう	漢字の書の多様性を楽しむ	p.4-5		ア・ウ	(1)(3)
	【篆書】 古典の書風を生かして書こう 「散氏盤」「天発神識碑」	p.6-7	(2)ア・イ		(1)(2)
	多彩な表情を楽しもう 「中山王罍方壺」 「篆書崔子玉座右銘四屏」	p.8-9	(2)ア・イ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)
	【隸書】 古典の書風を生かして書こう 「礼器碑」「銀雀山前漢簡」「敦煌漢簡」	p.10-11	(2)ア・イ		(1)(2)
	多彩な表情を楽しもう 「張遷碑」「開通褒斜道刻石」 「隸書崔子玉座右銘」 「隸書七言聯」「題昔邪之廬壁上」	p.12-15	(2)ア・イ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)
	【行書】 古典の書風を生かして書こう 【草書】 「喪乱帖」	p.16-17	(2)ア・イ		(1)(2)
	多彩な表情を楽しもう 「自叙帖」「伊都内親王願文」 「玉泉帖」	p.18-19	(2)ア・イ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)
	個性豊かな表情を楽しもう 長条幅(張瑞図／黄道周／王鐸／倪元璐／傅山)	p.20-21		ア・ウ	(1)(3)
	【楷書】 多彩な表情を楽しもう 「魏靈藏造像記」 「楷書前後出師表卷」「高貞碑」	p.22-23	(2)ア・イ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)
	漢字の書作品を味わう	p.24-25		ア・ウ	(1)(3)
	漢詩を書こう	p.26-27	(2)ア・イ		(1)(2)(3)
	〈コラム〉 書論の背景 黄庭堅	p.28		ア・イ・ウ	(1)(3)
② 仮名の書を探しよう	仮名の書の多様性を楽しむ	p.30-31		ア・ウ	(1)(3)
	平安時代 中・後期 字体の違いを捉えて書こう 「秋萩帖」「升色紙」	p.32-33	(3)ア・イ		(1)(2)
	字体と表現の広がりを楽しもう 「桂宮本万葉集」 「十五番歌合」「卷子本古今和歌集」	p.34-35	(3)ア・イ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)

	図書の構成・内容	該当箇所	学習指導要領の内容		
			A 表現	B 鑑賞	内容の取扱い
② 仮名の書を探ろう	平安時代 末期 書風の個性を捉えて書こう 「曼殊院本古今和歌集」「一条摂政集」	p.36-37	(3)ア・イ		(1)(2)
	〈コラム〉藤原家三代 能書の系譜	p.38-39		ア・イ・ウ	(1)(3)
	鎌倉時代 以降 際立つ個性を楽しもう 「更級日記」「源氏物語抄」「和歌一首」	p.40-41	(3)ア・イ	ア・イ・ウ	(1)(2)(3)
	仮名の書作品を味わう	p.42-43		ア・ウ	(1)(3)
	書と絵を調和させて書こう	p.44-45	(3)ア・イ		(1)(2)(3)
	〈コラム〉書論の背景 空海	p.46		ア・イ・ウ	(1)(3)
③ 漢字・仮名交じりの書を探ろう	漢字仮名交じりの書を楽しむ	p.48-49		ア・ウ	(1)(3)
	言葉と表現の響き合いを捉えよう	p.50-51	(1)ア・イ	ア・イ・ウ	(1)(3)
	〈コラム〉生活の中の書	p.52-53		ア・ウ	(1)(3)
	未来への決意を書こう	p.54-55	(1)ア・イ		(1)(3)
	〈コラム〉自分の表現を求めて	p.56		ア・イ・ウ	(1)(3)
④ 篆刻・刻字を 探ろう	篆刻を楽しむ	p.58-59		ア・イ・ウ	(1)(3)
	刻字を楽しむ	p.60		ア・ウ	(1)(3)
⑤ 資料	中国・日本書道史略年表	p.62-表3		ア・イ・ウ	(1)